

大和川水系流域治水プロジェクト【中間取りまとめ（案）】

～大阪・奈良の歴史・文化を守り、持続可能な経済発展を支える治水対策の推進～

資料2

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、大和川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては戦後最大の被害をもたらした昭和57年8月洪水と同規模の洪水はん濫による浸水被害を防止し、流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



昭和57年8月出水による浸水状況
(佐保川左岸4.8k～5.8k付近)
全・半壊269戸、床上浸水6,455戸、床下浸水15,232戸

■河川における対策

・河道掘削（河道拡幅、河床掘削、低水路拡幅）、堤防整備、浸水防止対策、護岸嵩上、引堤、高規格堤防整備、堤防強化対策、堰改築、遊水地整備、橋梁架け替え、樋門設置、バイパス水路開削、井堰改築

■流域における対策

【流水の貯留で氾濫を防ぐ・減らす】

・利水ダム等7ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
(関係者:国、奈良県、大阪府、天理市、桜井市)

【雨水貯留機能の拡大で氾濫を防ぐ・減らす】

・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
・既存ストック（調節池）の治水活用
・ため池の治水活用
・防災調整池の整備

【避難体制の強化で命を守る】

・掘削土を活用した高台整備

【住まい方の工夫で被害対象を減少】

・宅地嵩上
・土地利用規制・誘導
・開発行為に対する流出抑制対策指導
・市街化編入抑制区域の周知

※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策

【避難体制の強化で被害を軽減】

・河川監視カメラを活用した洪水監視の強化
・新技術を活用した越水・漏水感知システムの整備
・新技術を活用した流域の浸水監視体制の強化（河口部河床、外水、内水）
・流域の河川情報を一元化しホットラインを強化
・住民一人一人の退避計画（マイ・タイムライン）
・まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知
・メディアと連携した河川情報の発信
・防災教育・啓発活動等の推進
・要配慮者利用施設における避難計画の策定支援
・住民参加型の防災訓練の実施

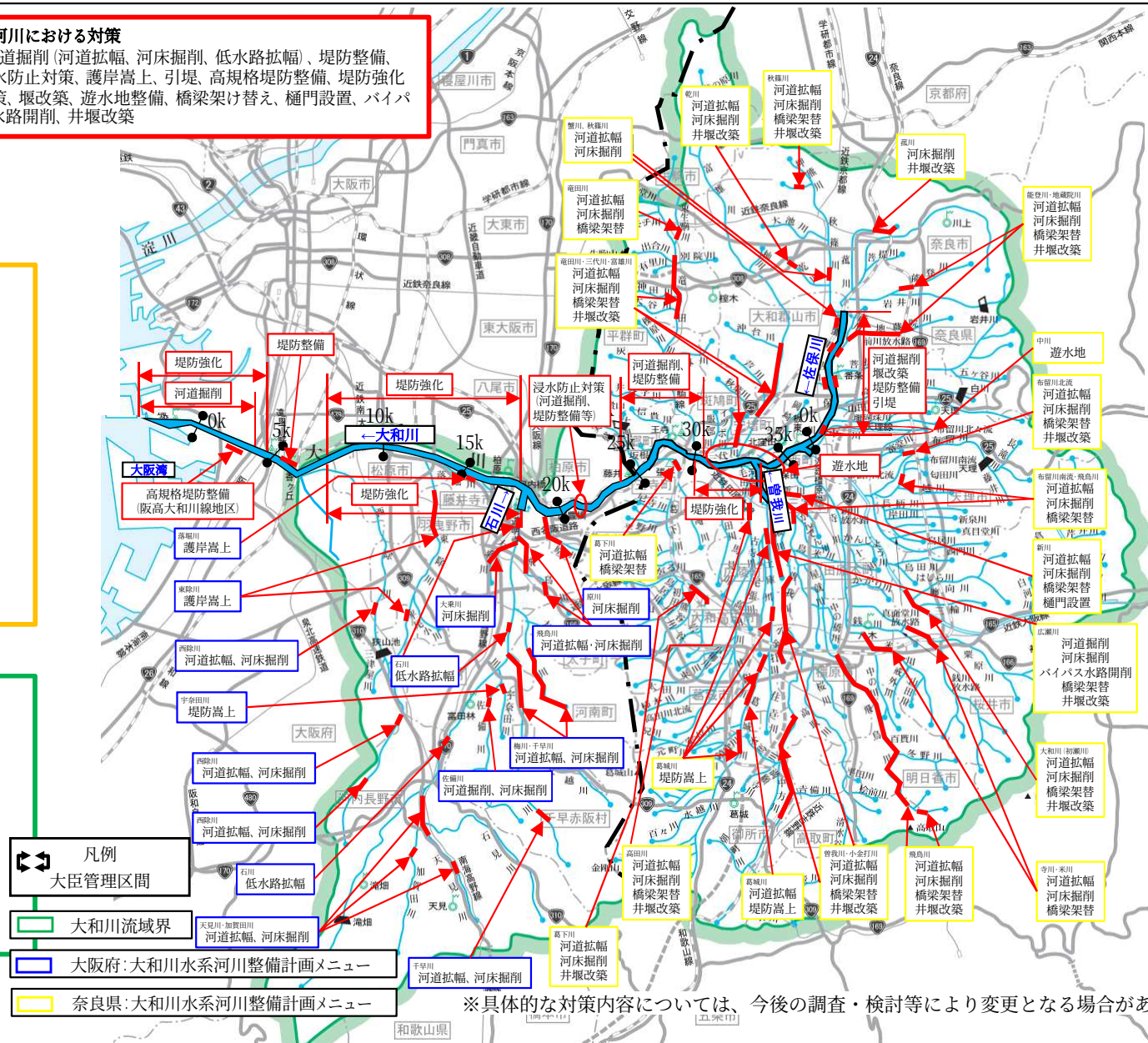
※今後、関係機関と連携し対策検討

凡例
大臣管理区間

大和川流域界

大阪府:大和川水系河川整備計画メニュー

奈良県:大和川水系河川整備計画メニュー



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。